



1 明北小・明南小3学年『市役所合同見学・交流会』 6月19日（金）



2校は、市役所で合流しました。1階ロビーで、明北小代表児童の司会・進行による“はじめの会”を行った後、2グループに分かれて市役所内を見学しました。屋上では、安曇野の町並みやアルプスを見渡すことができ、景色の素晴らしさに声を上げていました。担当の方の説明を聞きながら、各課や議場等を見学し、市役所で働いている方々はどんな仕事をしているのか学ぶことができました。



見学後、明南小に移動して交流会が行われました。ここからは明南小代表児童の司会・進行です。体育館で「だるまさんの日常」「ロンドン橋落ちた」「鬼ごっこ」「ドッジボール」を楽しみました。こども園からの友だちもいて、みんな仲良く笑顔で遊んでいました。



2校混同のグループに分かれて、自己紹介やお喋りをしながら、仲良くお弁当を食べました。昼食の後は、明南小児童が先導しながら校舎巡りをしました。15の教室をまわり、見つけたらカードにシールを貼っていきます。「こちらが〇〇室です。」「〇〇ではみんなで遊んだりお話ししたりします。」と、明北小児童に教えてくれました。

体育館に戻って行った“おわりの会”の感想発表では、一緒に遊べて楽しかったことや、また交流をしたい思いなどを伝え合っていました。

2 明科地域学校協働本部連絡会『第2回定例会』(明科公民館) 6月26日(金)



小中学校からの取り組み紹介に続き、地域・各種団体からの報告等がありました。

(1) 地域全体が子供たちの「学びのフィールド」へ

- **多彩な地域連携と「ふるさと探検隊」** 公民館と地域の方々が協働し、小学生を対象とした「ふるさと探検隊」が企画されています。8月には水産試験場の見学や竹の鉛筆作り(地域の方がカレーのお昼を振る舞います!）、長峰での化石・昆虫採集、そして秋には竹林整備の体験などを予定しており、地域の財産である「人」と「自然」の力を借りた活動が広がっています。
- **地域の「特技」を学校へ** 社会福祉協議会では、将棋が得意な方や、梅の収穫・加工ができる方など、地域で特技を持つ方々を学校の授業につなぐ橋渡しを行っています。「こんなことができるよ」という方がいらっしゃいましたら、ぜひお気軽にお声がけください。
- **明北小6年生からのお願い** 「明科で採取できる粘土を使った取り組みをしたい」という声があがっています。昔はレンガや瓦作りが盛んだった明科地域ですが、現在、子どもたちが安全に粘土を採取できそうな場所の情報が不足しています。もしご存知の方がいらっしゃいましたら、ぜひ学校まで情報を寄せてください。

(2) 明科の文化・歴史を伝え、誰もが安心できる居場所を

- **明科出身の世界的版画家・隠岐安弘さんを知っていますか** 明北小・明科中出身の版画家です。隠岐安弘さんの作品は、海外の美術館にも収蔵されるなど高く評価されています。明北小の校長室前にも、同窓生から寄贈された作品が飾られており、校内での展覧会の開催や、地域の文化施設・観光拠点に作品を常設展示できないかという夢が語られました。
- **どんな子供にも開かれた居場所づくり** 地域の歴史を深掘りし、土器づくりなどを体験する活動では、子どもたちの集中力が見られました。一方で、集団活動が苦手な子どもたちや、学校へ行きづらい子どもたちもいます。民生児童委員からは、「特別なことではなく、どんな子どもたちにも道が開かれていることを実感できるような相談体制や居場所づくりを、地域の大人みんな考えていきたい」という強い思いが共有されました。

(3) 連絡会を「協働をつなぐ場」に

- **市教育委員会より** 発行が始まった「教育委員会だより(ふるさと安曇野)」や「コミュニティスクール事業 地域学校協働活動情報」の紹介がありました。また、「この連絡会を、学校の困りごとや『ここが足りない』というSOSを率直に口に出し、地域の力で解決策を探る『協働をつなぐ場』として大いに活用してほしい」とのメッセージが伝えられました(例えば、熊が出没した際の子どもの見守り体制の共有など)。
- **地域コーディネーターより** 「子どもたちが、外部の人を自然に受け入れてくれるようになってきた」との感想がありました。これは、日頃からの地域の皆様の温かい関わりの賜物です。